

リベラリズムと公共性

0.はじめに

- ・哲学的な分野を勉強しようと思った理由…公と私の両立は可能か?電車を想像して

1.可謬主義的リベラリズムとは

- ・可謬主義… 「人間の能力には限界があるため、間違った認識を持ったり、誤った判断を下したりしやすい生き物であるという事実を重視し強調して話を進めていこうとする立場」
- ・リベラリズム…「人間の生き方に関する善き生の構想に基づく国家権力の行使を禁止し、それとは独立の価値に政治社会の構成原理を求める政治体制ならびにそれを支える考え方」
- ・リベラリズムの目的…「多様な善き生の構想の多元的存在の事実の下で社会的統合を可能にする政治社会の構成原理—通常、「正義」と称されてきた原理—の探索」

[I] 可謬主義的リベラリズムの哲学的纂盤

- ・ポパーの批判的合理主義…正当化の試みを放棄し、理性の能力を批判に兒出す考え方。
- ・バートリーの汎批判的合理主義
…①批判と正当化の分離、②帰結から前提への合理的性質やその度合いの逆推移性

[II] 可謬主義的リベラリズムにおける善き生の追求の形式理論

- ・井上の価値世界の構造化とリベラリズムの基本原理
善き生の構想を善き生の内容に関わる価値「人生完成価値」と善き生の探求を可能にする条件を構成する価値「人生構成価値」に区分する。
→可謬主義的リベラリズムは[人生構成価値]を政治社会の構成原理とする。

- ①正義は政治社会の構成原理であり、政治社会における行使の力の行使を規制すると共に、公権力によって強行され得るものである。(正義の公共性)
- ②正義の原理は、「善き生」の特殊構想に依存することなく正当化可能でなければならない。(正義の独立性)
- ③「善き生の特殊構想が正義の要求と抵触する場合、後者が優先する。(正義の優先性)

- ・ 汎批判的合理主義に基づく善き生の追求の過程
… →善き生の構想の仮説的形成→その構想に従った生の実践→その実践の
意図せざる帰結の参照を通じたその善き生の構想の吟味・修正→
新しい善き生の構想の仮説的形成→…

- ・ 汎批判的合理主義の下での善き生の追求の過程の特徴

- ①実際の行為の次元の重視
- ②状況に対する敏感さの重要性
- ③暗黙知の次元の重視
- ④認知的柔軟性の必要性

〔Ⅲ〕 善き生の追求の共通の条件

- ・ 外的条件…既存の善き生の構想を他者との相互作用の中で効果的に吟味していくための
社会的機会の保障
- ・ 内的条件…既存の善き生の構想を批判的吟味する際に必要となる自省能力と
その育成のための社会的環境の保障
→「一般化された他者」の視点を内面化できる社会的環境の整備と
高い self-esteem を獲得し維持することのできるような社会的環境の整備

2.可謬主義的リベラリズムから見た公共性

- ・ 政治社会の構成原理=正義=善き生の追求の共通の条件 = 公共性の定式化
- ・ 公共性…「公開性」、「共通性」、「多様性」の3要素からなる。
- ・ 公私二元論に代わる「政府の公—民の公共—私的領域」の相関二元論の採用
- ・ 「滅私奉公」や「滅公奉私」でもない、個人を活かしつつ公共性を構築する「活私開公」
- ・ 善き生の追求の共通の条件を学問横断的で包括的に探求する学問のグローバル公共哲学
- ・ 理想主義的現実主義と現実主義的理想主義からのアプローチ

3.可謬主義的リベラリズムの政治制度 [図1] 参照

- ・ 善き生の構想の吟味を行う主要な場としての「市場」
→セーフティーネットや内的条件の整備が必要
- ・ 可謬主義に基づく間接的帰結主義の人権論 [資料1] 参照
- ・ 家族、共同体、教育が担う内的条件の育成
- ・ 善き生の追求の共通条件を備えた理想的政治秩序の整備・実施主体の運営方法を
考えていくための民主主義制度

4. 「公共性」の価値創造

- ・みんなが公共性について考えるにはどうしたらいいか?
- ・教育とメディアへの期待
- ・キーワードの二面性(ex.CSR・安全・クールビズ)

5. おわりに

〔語句説明〕

理性 … 論理的、概念的に思考する能力
self-esteem … 自信

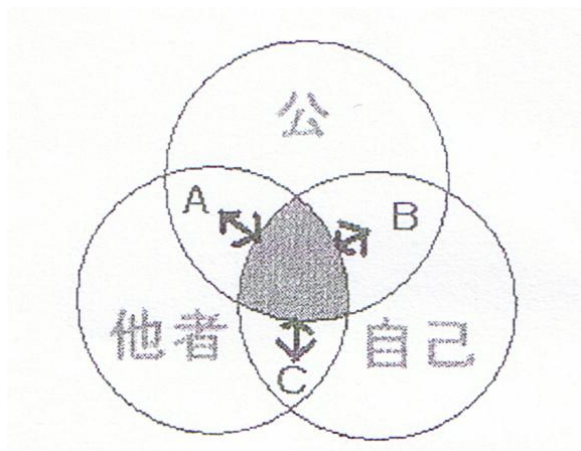
【参考文献・引用文献】

桂木 隆夫 『公共哲学とはなんだろう』 勁草書房 2005年

施光 恒 『リベラリズムの再生—可謬主義による政治理論』 慶應義塾大学出版会 2003年

山鵬 直司 『公共哲学とは何か』 ちくま新書 2004年

〔図1〕「公—自己—他者」の相関三元論の図式



A・B …公と私の相互作用の場。公は善き生の追求の共通の条件を支援してくれるかわりに、私は納税や保険料納付などで善き生の追求の共通の条件を支援する制度を支える。

(ex.人権、社会保障、教育)

C …他者と自己の相互作用の場。善き生の実質的構想を批判吟味にかける場。

(ex.市場、共同体、家族)

黒塗り…公共性のある場。ここでは善き生の追求の共通の条件を批判的吟味にかける。

公共哲学の学問領域である。善き生の実質的構想には関与しない。

公共性のある場とA・B・C間でも相互作用する。

〔資料1〕可謬主義的リベラリズムの人権論と基本的人権

自己の最善の生を生きることが究極の目標

→人間の可謬性の視点から既存の善き生の構想の直接追求は望ましい結果にならない

→善き生のあり方を発見するためには批判的吟味を行い、

つねに修正していかなければならない

→他者との相互作用により批判的吟味が可能になり、またその能力も養うことができる

→善き生のあり方を追求するためには他者の存在を認め尊重し、他者の認識行為の成果を利用しつつ自己の善き生のあり方を批判的吟味するといった間接的に方策が最適である

①様々な規範的判断を形成し、それについて反省的に吟味する全般的能力の保持のために必要な諸権利(ex.生存権、私的所有権、教育を受ける権利)

②ある特定の規範的判断の妥当性をその判断に従って実際に行為することを通じて検討するために必要な諸権利(ex.経済的自由、精神的自由)